

1. 名古屋市環境保全基金の残高等

			金額 (単位:円)	備 考
①	基金総額 (前年度末基金残高)		400,000,000	
	内訳	うち、国費相当額	200,000,000	
		うち、地方負担相当額	200,000,000	
		うち、負担附寄附金等	0	
②	基金運用益		45,228	
③	その他収入			
④	負担附寄附金等			
⑤	返納額		0	
⑥	基金執行額 (処分額)		34,673,386	内訳は下表のとおり
⑦	基金残高		365,371,842	(=①+②+③+④-⑤-⑥)
	内訳	うち、国費相当額	182,685,921	
		うち、地方負担相当額	182,685,921	
		うち、負担附寄附金等		

2. 保有割合

	次年度の基金類型	取崩型	金額 (単位:円)	備考
⑧	基金残高		365,371,842	
⑨	事業費 (次年度から終了年度までの見込額)		365,371,842	
⑩	保有割合		1.000	= (⑧/⑨)

保有割合の算定根拠
 運用型：運用益見込額÷事業費 (次年度見込額)
 取崩型：基金残高÷事業費 (次年度から終了年度までの見込額)

3. 事業一覧

番号	事業名	事業費			備考	達成度	事業費 (次年度)	事業費 (終了まで)
		合計	一般財源等	基金充当額				
1	環境保全意識啓発事業	98,233,703	63,605,545	34,628,158		15%	41,246,000	203,371,842
2	環境保全活動推進事業	746,482	701,254	45,228		0%	10,337,999	90,000,000
3	環境学習推進事業	0	0	0		0%	9,000,000	72,000,000
4		0						
5		0						
6		0						
7		0						
8		0						
9		0						
10		0						
11		0						
12		0						
13		0						
14		0						
15		0						
合 計		98,980,185	64,306,799	34,673,386			60,583,999	365,371,842

4. 基金事業の目標に対する達成度

成果指標	環境問題の解決には、市民自らが行動することが必要だと思う市民の割合	
成果実績	51.9%	
目 標 値	60.0%	
達 成 度	86.5%	

令和元年度 事業報告書

事業名	環境保全意識啓発事業	新規・継続区分	継続
事項名	(1) 「国連生物多様性の10年」最終年事業 (2) 河川の浄化に向けた検討調査 (3) 区役所への燃料電池自動車の導入、普及啓発	開始年度	令和元年度
担当部署	環境局環境企画部環境企画課	終了年度	令和9年度

1. 目的及び目標（値）

【目的】

自然との触れ合いやイベントへの参加、環境に関する情報の発信等を通して、環境に関心の低い人をはじめ広く市民の環境に対する意識の向上を図るとともに環境保全活動に取り組むきっかけづくりとするため。

【目標】

- ・温室効果ガスの排出量を2013年度比で27%削減（2030年度目標）
 - ・暮らしの中で生物多様性に配慮した行動をしている市民の割合 55%以上（2019年度：56.4%）
 - ・日常生活でごみの減量やリサイクルに取り組んでいる市民の割合 90%以上（2019年度：82.8%）
- ※2020年度に環境基本計画を改定予定のため、目標値を変更する可能性あり。
※2019年度数値は速報値。

2. 概要

市民の関心が高いテーマに関するイベントの実施や環境に関する啓発ツール等の活用、環境情報の充実などにより環境問題に対する意識啓発を行う。

3. 根拠法令等

【共通】

- ・環境基本法
- ・名古屋市環境基本条例
- ・第3次名古屋市環境基本計画

(1)

- ・生物多様性2050なごや戦略

(2)

- ・水循環基本法
- ・市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例
- ・水の環境活2050なごや戦略第2期実行計画
- ・山崎川河川整備計画

(3)

- ・第5次エネルギー基本計画
- ・水素基本戦略
- ・低炭素都市なごや戦略第2次実行計画

令和元年度 事業報告書

事業名	環境保全意識啓発事業	新規・継続区分	継続
事項名	(1) 「国連生物多様性の10年」最終年事業 (2) 河川の浄化に向けた検討調査 (3) 区役所への燃料電池自動車の導入、普及啓発	開始年度	令和元年度
担当部署	環境局環境企画部環境企画課	終了年度	令和9年度

4. 実施内容等

(1) 「国連生物多様性の10年」最終年事業 ○未来へつなぐ「国連生物多様性の10年」せいかりレーキックオフイベント 2020年に、COP10で提唱された「国連生物多様性の10年」の最終年を迎えるにあたり、この間の生物多様性の取組を総括するイベントを開催。様々なセクターの活動の活性化を図った。 【主催】：UNDB-J、環境省、愛知県、名古屋市 【開催日】：令和2年1月11日、令和2年1月12日 【会場】：名古屋国際会議場 【内容】：シンポジウム、ブース展示、分科会 【参加者】：7,300人 【ブース出展者】：75団体 ○なごやグリーンウェイブ2019 植樹や樹木との触れ合いを通して生物多様性について考えるイベント・講座等を実施した。 ・ナナちゃんストリートにおけるグリーンウェイブ普及啓発 ・「発見！なごやの自然・生きもの」フォトキャンペーンの実施 ・市内一斉植樹の実施 参加団体数：41団体 ・小学校向け出前講座「ミカンの樹を育ててアゲハ蝶を呼ぼう！」の実施 ○生物多様性×SDGs啓発映像 生物多様性の認知度を高めるため、SDGsのうち、生物多様性と関連が深い目標12から15を用いた4つの啓発映像を作成し、動画サイトへの投稿やイベントにおいて活用した。 ○生物多様性に関する情報の発信 生物多様性に関する効果的な情報発信を行うためのポータルサイト「なごや生きものライブラリー」を開設した。 (2) 河川の浄化に向けた検討調査 ○意識調査 湧き水の存在が確認され、自然の水循環が残る山崎川の中流部において、地下水の涵養を増やす取り組みに向けて、雨水浸透貯留施設に関する認知度やその設置に関する意識等を把握するため、アンケート調査を実施した。 【調査対象世帯数】：1,000世帯 【有効回答数】：404 ○啓発活動 山崎川の歴史やそれを取り巻く水循環について、広く市民に啓発するためのツールとしてリーフレットを作成した。 (3) 区役所への燃料電池自動車の導入、普及啓発 各区役所に導入した燃料電池自動車（FCV）の車体へ、FCVの特長を市民に分かりやすく伝えることを目的としたラッピングを施した。また、FCVの持つ環境面・防災面での有用性をPRするため、チラシやのぼりの作成等を行った。
--

令和元年度 事業報告書

事業名	環境保全活動推進事業	新規・継続区分	継続
事項名	地域における環境教育	開始年度	平成2年度
担当部署	環境局環境企画部環境企画課	終了年度	令和9年度

1. 目的及び目標（値）

地域の特性に応じた環境保全の推進

2. 概要

各区の地域特性に応じた環境保全を推進するため、保健福祉センターが主体となって身近な環境問題をテーマに地域に密着した環境保全に係る実践活動等を実施する。

3. 根拠法令等

名古屋市環境保全基金条例

4. 実施内容等

開催数：135回 参加者：19,515名（全16区合計）
＜主な内容＞
エコだよ！料理教室・・・野菜の皮などの普段捨ててしまう部分も余さず使い切る環境にやさしい料理を作り、身近な食から環境のためにできることを学ぶ料理教室を開催した。
親子エコ工作教室・・・抽出後のコーヒーがらの脱臭効果を利用したマスコット作りを通して身近なことから環境について学ぶ親子エコ工作教室を開催した。